

双塔



新潟教会 2014年1月

No. 308

「希望」

主任司祭 ラウール・バラデス

新しい年を迎えて 明けましておめでとうございます。

めでたい挨拶を交わしながらも、世の中で大震災被災者をはじめ多くの方が税金の増税、年金の減少、少子化、高齢化、人間関係、などで心配を抱えながら生活している。教会の私たちも例外ではないです。

しかし「信仰をもっている者は、主の十字架と復活を心に留めつつ、神の子らの現れに対する希望のうちに生きている。彼らは、この世の旅路にある間、キリストとともに神のうちに隠れて、富への隷属から解放された者として、永遠に朽ちない富にあこがれつつ、神の国を広めるために、また現世の事物の秩序をキリスト教的精神で満たし完成するために、惜しみなく自分のすべてをささげるのである。この人生の逆境のさなかにあつて、彼らは希望のうちに力を見いだし」ます。[1]

言い換えれば、不安な状態に置かれていても、生きておられる主イエスは共にいて支えてくださる。少しずつ作り替えられているのでこの世の心配より「神の国」の建設のため、またはこの世を「キリスト教的精神」にするために働くものに理屈がある。先ず、自分の生活、自分の周りをどうやって「神の国」と「キリスト教的精神」に変えていくか。それは私たちに与えられた使命、課題でもある。

しかし、一人一人はこの役割を果たすために体力と努力よりは主イエスとの強い絆が必要とされるのです。

その絆を強めるために、去年は信仰年を迎え、信仰の原点に戻るように強く招かれました。

信仰が希望を生み出す。希望は無力と不安の中でも行動を促し、支える。

今年は特別な企画が定められていないが「希望年」にしたらどうでしょうか。

「希望」という燃料で動かされて、できるだけ多くの方は生きる喜び、愛の美しさ、信仰の強さ、つまり主イエスに出会うように導かれますように。

では、今年も宜しく申し上げます。

[1] 「第二バチカン公会議公文書 425 ページ・信徒使徒職に関する教令 4 番号」

